

2025 年度 研究サマリー

研究会名称	透析治療研究会が実施する「慢性血液透析患者に対する通常療法またはスタチン系薬剤併用療法による介入比較試験（DIALYSIS）」	
代表者所属	順天堂大学	
代表者氏名	富野 康日己	
慢性血液透析患者の脂質管理をはじめとする患者自身の健康管理が自立生活の延伸や生命予後に支援アプリを使用がどのような影響を及ぼすかを明らかにする研究準備として、アプリ利用の可能性・有効性を確認するため 2022 年度に開始した研究課題：「維持血液透析患者における通信環境やヘルスリテラシーとフレイルや透析管理との関連性についての多施設共同研究」は、2025 年 3 月に論文化された。 2024 年度実施研究の内容 先行研究を受けて、2024 年度は慢性血液透析患者の服薬指導をはじめとする介入を介してヘルスリテラシーならびに生活自己管理能向上の誘導を図ることで、患者の生活の自立・生命予後考え、すでに壮年健常者用に開発した体調自己管理誘導アプリを、慢性血液透析患者・アクティブシニア用に改編し 2 つ臨床研究が開始され現在進行中である。 <研究 1>このアプリを用いて服薬・透析管理の臨床的效果ならびに健康管理の行動変容の研究（研究名：「維持血液透析患者における健康管理行動の変容と e ヘルスリテラシー向上への体調管理アプリの有効性に関する多施設共同研究」、承認番号：順保倫第 6-04 号）を、慢性透析患者管理する 4 施設で倫理承認を得て、現在対象者のリクルートし利用によるヘルスリテラシーならびに健康管理への行動変容のデータを収集開始している。 <研究 2>慢性透析患者の音声・言語評価アプリを用いて認知機能を含めたフレイル状態の評価を行い、潜在的な透析患者の認知機能低下の現状の把握と透析患者に特徴的な認知・フレイル要素の抽出、透析自己管理との関連を検討する研究（研究名：「高齢者のフレイル早期発見にむけた認知機能測定 AI アプリケーションの利活用に関する探索的研究」承認番号：順保倫第 6-13 号）を開始し、データを収集中である。 2025 年度研究計画 研究 1 および 2 は 2025 年度も、目標症例数を目指し継続してリクルートを進め、さらに収集したデータの解析を行い、学会での情報発信を行う。2025 年度以降、現在の研究結果を踏まえ、さらにアプリの改修ならびにフレイルが進行した対象者（ディフェンシブシニア）用のアプリを開発する。 研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等） Hamada C, Tomino Y. Assessment of communication environment and health literacy of patients on chronic hemodialysis: a multicenter observational study (SMEL-HD study). Clin Exp Nephrol. 2025 Mar;29(3):322-331.		